社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

環境と人にやさしいゴルフとゴルフ場

第18回

自然公園で活躍する自然保護ボランティア

財団法人自然公園財団事務局長 森　孝順

ボランティア活動への期待

ボランティア活動が世間に注目され、活発化する一大契機となったのは、平成７年１月に発生した阪神・淡路大地震における広範な救援活動への参加からである。さらに、平成９年１月に発生したロシア船「ナホトカ号」の海難事故による海岸に漂着した重油の回収に、多数のボランティアが参加したことは、特筆すべきことであった。

このような災害分野でのボランティアの活躍とは別に、美しい日本の自然を守ろうとする自然環境保全型のボランティア活動は以前から行われていた。その一つが、自然公園を対象にした自然保護ボランティアの活動である。

日本の優れた自然風景は「子孫からの預かりもの」として、未来に引き継がなければならない。この自然を守るために、全国各地の山岳地や海岸で地道に活動しているボランティア団体を支援する目的で、社団法人ゴルファーの緑化促進協力会（略名ＧＧＧ）を委託者として公益信託自然保護ボランティアファンドが設立され、昭和 62 年（1987 年）から助成事業がスタートした。

公益信託制度とは

公益信託自然保護ボランティアファンド（略称ＮＣＶＦ）は、国立公園や国定公園を対象に、国民が自ら自然を保護していくボランティア活動を、支援するために設立された募金型の公益信託である。公益信託は、一般的に資産の運用益で事業を行うものであるが、ＮＣＶＦは継続してＧＧＧからの寄付金を頂くとともに、多くの団体や個人からの募金を主な財源として事業を継続している。財団法人自然公園財団は、自然公園を維持管理する観点から、ファンドの円滑な運営に協力している。

助成を開始して以来、22 年間で延べ 363 団体に１億 3232 万円の活動資金の助成を実施している。平成 21 年度の内容は、27 団体に合計 700 万円の助成実績となっている。近年、応募者が増加しているため、一件あたりの助成額が少なくなる傾向にある。しかしながら、数年間にわたり継続して助成していることから、効果的な支援となっている。

助成事業の内容

発足当時は、自然公園内でのゴミの清掃や公園施設の補修、高山植物の盗掘防止パトロールなどの助成が多かった。その後、自然解説ガイドの養成に力を注いだ時期を経て、現在は、高山植物の復元、外来種の駆除、希少動植物の保護なども加わり、活動内容も多様化してきた。特に、近年、山岳地域で増加して

いるシカの食害を防ぐためにネットを張る事業や、侵略的な外来種であるオオハンゴンソウの除去など、一般の人を巻き込む参加型のボランティア活動に移行してきた。

ファンドの助成の対象となるボランティア活動は、次のとおりである。

○希少植物などの植生復元や野生動物の生息環境の保全活動
○地域の生態系を守るための侵略的な外来生物の駆除活動
○登山道、探勝路、園地などの維持補修活動
○国立公園、国定公園の美化清掃活動
○公園を訪れる利用者への自然解説などの自然ふれあい活動
○次代を担う子供達を自然へと誘うための環境教育活動

なお、公益信託自然保護ボランティアファンドの応募方法、助成状況については、自然公園財団のホームページ(http://www.bes.or.jp)に詳しく掲載している。

平成20年度の助成先の活動事例

①外来植物の駆除（富山県ナチュラリスト協会）

立山室堂地域における外来種の駆除活動

中部山岳国立公園の立山室堂地域は、立山・黒部アルペンルートの核心部に位置することから、観光客、登山客が著しく増加した。このため、靴に付着して運ばれた種により、セイヨウタンポポ、フランスギクなどの外来植物が侵入して、在来の高山植物の生態系に影響を与えている。協会では、ボランティアを動員して、アルペンルートや登山道沿いの外来種を駆除している。

②海岸漂着ゴミの回収（小笠原野生生物研究会）

小笠原諸島における漂着ゴミの回収活動

小笠原国立公園は、東京から南に約1000㎞離れた太平洋上に位置することから、様々な国からのゴミが海岸に漂着する。このため、自然景観だけではなく、アオウミガメの産卵など自然生態系に影響を与えており、多量の漂着ゴミの処理が大きな課題となっている。研究会のメンバーは兄島などに渡り、船を使って海浜のゴミの回収を行っている。

③シカ食害対策（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク）

南アルプスにおけるシカ食害防止柵の設置活動

南アルプス国立公園では、個体数の増加したニホンジカの採食行動により、高山植物群落が著しく減少するとともに、一部では土壌浸食が進んでいる。特に、三伏峠（標高 2600m）付近は、かつてサンプクリンドウなどの高山植物が一面に咲き乱れるお花畑で有名でした。現在、その復元を図るために、広くボラン**ティアを募り、シカの侵入を防ぐ柵を設置している。**

④サンゴ群集の回復（足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会）

高知県大月町の海中公園におけるサンゴ保全活動

高知県の最南端の足摺岬から宿毛に至る海岸線は、黒潮が直接接岸するところで、イシサンゴ類などの造礁サンゴが発達している。この地域にある海中公園では、サンゴを食べる巻貝の発生などにより、サンゴ群生地が被害を受けてきた。このため、地元のダイバーが中心となり、ボランティア活動として巻貝の駆除やサンゴの移植を実施して、サンゴ群集を回復する作業を行っている。